

変化が激しく予測不能！？

## VUCA時代に必要な考え方とは



「VUCA ブーカ」という言葉をご存知ですか？ マイナス金利やイスラム国の大規模テロなど予測不能な経営指標をあらわす言葉として、数年前から使われ始めてきているようです。

昨今、経済や企業組織、個人のキャリアにいたるまで、ありとあらゆるものを取り巻く環境が複雑さを増し、将来の予測が困難な状況にあります。そんな現代の経営環境や個人のキャリアを取り巻く状況を表現する4つのキーワードをまとめた言葉が『VUCA』です。「VUCA 時代」とも称されています。元々は1990年代後半にアメリカ合衆国で軍事用語として発生した言葉でしたが、2010年代になってビジネスの業界でも使われるようになりました。

### VUCAとは？

#### 1. Volatility－変動性

ITの驚異的な発展もあり、新しい事業や業界が生まれては消えるまでのスピードが速まっています。このような急速で大きく変化する環境を意味しています。

#### 2. Uncertainty－不確実性

グローバル化が進んだことにより、海外から競合が参入してくる可能性もあります。一方では世界中で大規模な自然災害や気候の変化が発生しています。不確実性は、未来がどうなるか予測することが困難な様を意味しています。

#### 3. Complexity－複雑性

既存の枠組みを超えた事業が増えつつある中、個人や組織の扱う業務は広く深く複雑になります。オープンノーションが広がりを見せ、現代の複雑性はますます高まっています。

#### 4. Ambiguity－曖昧性

前例のない全く新たな事業の実現は困難です。なにからなにまで手探りで進めるしかなく、失敗の度合いや回数もわからず、ものごとの因果関係が曖昧なため、実現までどのくらいの期間を要するのかも正確な予測はできません。



個人レベルでは、ビジネスの競争がグローバル化し市場が極めて速く変化していく中、「永久就職」や「一生安泰」という言葉が古くなってきています。これは企業が長期的・安定的な運営をするのが困難になってきていることに起因します。

組織レベルでは、ひとつのビジネスモデルで一時成功を収めたとしても、それを上回る、もしくは代替するような別のモデルがすぐに生まれてしまいます。新たな技術が開発されてはすぐに商品化され一般流通するため、ほとんどの分野で市場参入のハードルが低くなっているのが大きな理由です。

つまり現代のビジネスシーンは、すぐに変動し、継続的な成功を収められるかは不確実であり、成功への道筋は複雑であり、曖昧でもあるのです。このことから常套手段というものはないとも言えます。

それでは、変化が激しく予測不能なVUCA時代を生き残る組織であるためには、どうしたらよいのでしょうか。経済産業省の人材力研究会の報告書にもあるように先が見えないビジネス環境では、以下のような考えが必要かもしれません。

## VUCAに必要な考え方

### 1. 予測不能な事態や障害は当然起こり得るものと考え

今把握している情報は最大限活用し未来の予測を立てることも必要ですが、せっかく立てた予測が覆るような新たな情報の流入でも受け入れて、新たにじっくり検討します。

### 2. 目標へのシナリオを常に考え、必要に応じて随時書き換える

目標へのシナリオを考える際に、最初から隙間のある道筋を描くことです。目標までの道筋には、VUCAが待ち受けており、完璧なシナリオ通りにはいきません。目標に近づくにつれ、予測力は高まります。新しい情報を取り入れながら、シナリオも随時書き換えることが必要のようです。

### 3. 未来の自分が最良の判断ができるように、現在できることを最大限する

最終目標までのおおまかなシナリオが描けたら、すぐに行動を開始します。最初の行動を起こす時点では、最終目標がどのような形で達成されるのかはまだわかりませんが、自分が行動することで、シナリオの穴をその都度埋めていきます。また、常に世の中の動きを捉え、かつ広い視野で熟慮することができるよう、常に新しいことを学び貪欲な姿勢も必要となってくるでしょう。



VUCAの時代では、入念にシミュレーションしても想定を超える事態が次々と発生してしまいます。だからこそ、今起きている事態や新しい情報に意識を向け、素早く行動を起こす必要があるようです。



大和総研による意識調査でも「これからの経営トップに求められる資質」として先見性、リーダーシップについて『環境変化対応』の資質が3番目に多くあげられています。これからは変化に強い企業や人が求められ、柔軟に対応していかなければいけないのかもしれないですね。